

1. 柱の目標値と結果

（１）生活の安心感を感じている人の割合の増加

平成 29 年度実績値	令和 3 年度実績値	令和 5 年度実績値	令和 6 年度目標値
77.3%	82.2%	81.6%	85.0%

（２）支援の必要な人が安心して生活できる地域だと思う人の割合の増加

平成 29 年度実績値	令和 3 年度実績値	令和 5 年度実績値	令和 6 年度目標値
57.6%	64.3%	64.7%	70.0%

2. 施策の主な成果（取り組んできたこと）

○防災福祉 K-Net 事業

平常時から地域の方へ避難行動要支援者の情報を提供することで、災害発生時や災害発生が予想される時の安否確認や避難支援を地域の方に協力していただく制度です。コロナ禍でも、町会向けに制度の案内ができるよう、事業の説明動画を作成し市のホームページに公開し、周知に努めました。

○高齢者権利擁護ネットワーク事業

虐待等、高齢者の権利侵害の早期発見と適切な支援に向けて、高齢者の権利擁護に関する機関を中心とした権利擁護ネットワーク会議を開催し、連携体制を構築しています。各機関において、権利擁護啓発活動等を実施しました。

3. 市民・学生アンケート調査，市民ワークショップの分析

＜市民アンケート＞

- 「生活の安心感」や、「支援が必要な人が安心して暮らせる」と感じている割合は、計画策定時より増加傾向にある。
- 災害が起きた時に支援してくれる人としては、「家族」が 8 割で最も高く、「親戚」「近所の人」「友人」が 2 割程度となっており、家族が在宅でない場合も起こりえることから、**近隣とのつながりや支援体制づくりを進める必要**がある。

＜中学・高校生アンケート＞

- 「将来柏市に住みたいか」については、「今の時点ではわからない」とする意見が半数以上を占めおり、「将来柏市に住みたい・住みたい」と「柏市を離れても、いずれは柏市に住みたい」を足

した“将来柏市に住みたい”という割合は 2 割半程度。

- 安心して生活するために重要だと思うものは、「いろいろな人が交流できる場所をつくる」が 6 割弱と最も多く、**多世代交流の場を求めている傾向**がうかがえる。

＜市民ワークショップ＞

- 「災害時に近隣と助け合う関係があると思う」という設問については、4 グループ中 2 グループが YES と回答。また、「高齢者や障がい者にも暮らしやすいと思う」という設問については 4 グループすべてが NO となった。**災害時の支え合いの強化や地域全体で高齢者や障がい者にとって暮らしやすい環境整備が重要**だと考えられる。

第 4 期の総括と第 5 期計画で意識する課題

- 生活の安心感を感じる市民の割合が計画策定時より増加しており、目標値に近づいている。市民が生活の安心感を持てるよう、**支援体制のさらなる強化**が必要。特に、高齢者や障がい者、子ども（子育て世帯）が安心して暮らせる環境整備が重要。
- 地域防災や防犯の観点**では、市民の意識の向上や正しい情報を迅速に把握していく必要があるため、**教育や啓発活動および情報発信を継続して行うこと**が求められる。
- 「だれもが安全・安心に暮らせる環境づくり」を今後より推進していくには、災害時の避難支援体制を整え、地域住民同士のつながり強化など、**地域のつながりの再構築や災害時要支援者等の支援体制の充実**が必要。
- すべての人の人格を尊重し、その人が自分のことを自分で決め、自分らしく生きることができる地域社会の充実が図れるような支援施策の拡充を進めていく必要がある。